

散布ムラ改善試験実施

01

6月13日、中南地域県民局農業普及振興室が感水紙を使った散布ムラの改善試験を行った。

この試験は去年に引き続き実施。様々な箇所に感水紙を付け、通常通り薬剤散布をし、散布ムラが発生した箇所の原因を探りながら、次回の薬剤散布の際に改善に取り組んでいくものである。

今回取り組んだ園地は、以前黒星病が目立った樹がある園地で行なわれた。

第一回目であることから通常通り散布をしてもらい、関係者は散布経路や薬剤のかかり具合を伺っていた。

散布終了後感水紙を回収してみると、黒星病が目立っていた樹は散布ムラが多く見られていた。原因として、問題の樹付近で薬剤が無くなった場所であることが分かった。そして、次のスタート時には薬剤が完全になくなったところからスタートした為、十分な薬剤が散布することが出来ていないことが考えられた。



薬剤がかかり青くなる感水紙

また、SSの風力により感水紙に葉が重なったことにより散布ムラになっていた箇所もあった。

次回の散布時には、薬剤を補充してスタートする位置を薬剤が無くなった場所より少し手前から散布することや、SSの風による散布ムラを解決するには往復散布するなどの対処で解決できると推測している。

「次回の散布時の試験には問題を解決出来るようしっかりと準備を進めていきたい。」と関係者は意気込んでいた。

常勤が生産者へ激励

02

第3巡回講座が6月16日に行われ、常勤3名が各巡回講座会場へ足を運び、生産者へ晩生種の精算の状況などが話された。

大場組合長は「元年産りんごは皆さんの丁寧な栽培により良い販売が出来た。2年産りんごも我々JAと一緒に高品質りんご生産を目指して頑張りましょう。」と激励の言葉をかけていた。

また、生産者らと困っている事等の意見交換をし、有意義な時間となった。



現地で生産者と意見交換をする組合長

アメンボ号発進

03

6月18日、試験的に水稻の除草作業を行った。

作業は田植え機の後ろにアメンボ号という土を耕起して除草する機械で行われ、秋田県で除草剤を使わずに、無農薬栽培をしている生産者が使用している機械である。

使用した関係者は、「本来は手で押しながらこの作業をするが田植え機を使い行つ事でより労力を抑えることが出来ると思う。」と述べていた。



改良した輝くアメンボ号

topics
生産者へ晩生種精算報告
04

6月19日、晩生種精算報告会が本所と相馬ふれあい館にて行われ、取引市場の担当者も訪れた。

担当者は「数量は減ったものの、近年まれに見る価格の上昇に驚いた。この先リンゴ産業を続けていく為にも皆さんの素晴らしい技術で頑張っていてほしい。」と激励の言葉を伝えた。

令和2年産リンゴも高品質果実生産に向けて、安全に作業をお願いしたいと、組合長、関係者一同願った。



令和2年産リンゴの意気込みを述べる大場組合長

topics
長年の功績が表彰される
05

J A青森中央会が当J Aの三上道廣前組合長に農業協同組合経営功労表彰を授与した。

この賞は勤続6年以上を経て、J Aの発展に貢献した功労者に送られる賞である。

三上前組合長は平成7年8月に当J Aの理事に就任し、以来24年間にわたり、組合員の所得向上を最優先に考え、J A祭等の地域住民が楽しめるような事業も行い、J Aの経営基盤強化と健全経営に尽力するなど多大なる功績を残した。

また、農業経験を活かしたこだわりリンゴ「飛馬ふじ」の生産拡大にも取り組み、普及拡大に尽力し、農家の所得向上に努めた。

表彰式に参加した大場組合長は「三上前組合長が長年取り組んだ数々の功績をこれからも引き継ぎ、よりよいサービスや事業により組合員や地域住民に満足し続けてもらえるように組織一丸となって取り組んでいこう」と意気込んでいた。



全国各地へ知れ渡ったこだわりリンゴ「飛馬ふじ」



表彰状を手に記念撮影
(写真左から酒井一由副会長理事、三上道廣前組合長
写真右、阿保直延代表理事会長)



地域の方々の多くの笑顔で溢れたJA祭



地域学校との食育活動